

3. 2025年12月8日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、2025年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期（四半期）純利益を算出しております。なお、1株当たり配当金については、2025年6月期（実績）の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出した場合の数値を参考までに（ ）内記載しております。

【2026 年 6 月期業績予想の前提条件】

1. 当社の見通し

当社は、「コミュニケーションによる感動を最大限に追求し、AI を駆使した全自動社会を最速で実現する」というミッションのもと、労働力人口の減少や、それに伴う DX 推進などの社会的・経営的課題の解決に資するソリューションとして、SaaS によるサブスクリプション(継続課金)方式のチャットボットシステム「ChatPlus」「AI AgentPlus」及び FAQ システム「FAQPlus」の開発・提供を行っております。

チャットボットシステムは、従来、電話やメールなどの有人対応により実施されていた社内外からの問い合わせ対応を自動化・省人化することで、企業の業務効率化及び生産性向上を支援するサービスであります。また、導入の容易さとコストパフォーマンスを特長としており、多くの顧客企業において DX 推進の基盤ツールとして活用されています。さらに、Web サイトや EC サイト上で訪問者を適切な情報へ誘導する機能を備えており、マーケティング支援ツールとしても活用されています。これにより、コンバージョン率の向上や運用コストの削減を実現し、顧客企業の収益最大化に貢献しています。加えて、ヘルプサイトの運用を支援する FAQ システム「FAQPlus」を展開しています。

チャットボットシステムを取り巻く市場環境については、カスタマーサポートや社内ヘルプデスクにおける人手不足やコスト削減ニーズ、E コマース市場の拡大等を背景に、引き続き需要の拡大が見込まれております。当社が属する自動対話システム市場においては、生成 AI の活用により、社内ヘルプデスク等の自動化・効率化目的で導入が進み、引き続き成長を続けると考えられております。同市場規模(テキスト型)は、2024 年度の 182 億円から、2030 年度には 508 億円 (CAGR18.6%) に達すると予測されております(デロイト トーマツ ミック 経済研究所「自動対話システム市場の現状と展望 2026 年版」2026 年 3 月 <https://mic-r.co.jp/mr/03720/>)。

チャットボットシステムは、初期導入のハードルが比較的低い SaaS 型サービスであり、費用削減と売上拡大の双方を実現し得る有効な DX ツールと位置付けられます。さらに、顧客企業の CRM や各種業務システムとの連携を通じて、チャットボットの管理者・運用担当者の意図を理解し、タスクの効率化・最適化を実現する機能開発を推進しております。これらの取り組みにより、顧客企業における利用範囲の拡大及び継続的な利用が進むものと想定し、当社の業績予想を策定しております。

2. 業績予想の前提条件

(売上高)

当社は、SaaS ソリューション事業の単一セグメントであります。売上高のうち、主たる事業であるチャットボットシステム及び FAQ システムに係るストック型収益が 90%以上を占めております。

チャットボットシステム及び FAQ システムのストック型収益は、各サービス及び各プランの月額利用料が継続的に積み上がることにより増加します。2026 年 6 月期の業績予想の算定にあたっては、2026 年 1 月までの実績に、2026 年 2 月から 6 月までの各サービス及び各プランの月額利用料の累計見込額を加算して売上高を算定しております。

各サービス及び各プランの月額利用料の累計見込額については、サービス別及びプラン別に、2026 年 1 月までの 1 年間の平均受注件数及び平均 Churn レート(解約率)を基に、新規受注件数及び解約件数を見込み、毎月末のアカウント件数を算出しております。

当該アカウント件数にサービス別及びプラン別の単価を乗じることで月額利用料を算出し、その累計額を

見込んでおります。

また、チャットボットシステム及びFAQシステムにおいては、ストック型収益に加え、顧客企業の要望に基づく有償の開発案件が発生する場合があるため、2026年6月末までに計上が見込まれる当該開発案件に係るフロー型収益を加算しております。

さらに、チャットボットシステム及びFAQシステム以外に、SaaS方式によるWebメディア向けコンテンツ配信サービスを展開しております。当該サービスについてもストック型収益であり、直近の実績を踏まえ、毎月一定額の売上高を計上する前提としております。

以上の前提に基づき、2026年6月期の売上高は1,222百万円（前期比19.6%増）を見込んでおります。

（売上原価、売上総利益）

売上原価は、主にチャットボットシステム及びFAQシステムの提供に必要なインフラ基盤に係るコストで構成されております。

システム利用料につきましては、主としてAWSのサーバー利用料であり、売上高又は顧客企業の利用量に応じて変動する変動費であることから、2026年1月までの実績を踏まえ、2026年2月から6月までの見込売上高に一定の比率を乗じて算出しております。チャットボットシステム及びFAQシステムの開発、保守及び運用に係る外注費につきましては、2026年1月までの実績に加え、今後発生が見込まれる追加費用を考慮して算出しております。

社内人件費につきましては、開発部門に係る人件費であり、現状の人員体制に基づく一人当たり人件費に人員数を乗じて算定し、2026年4月の昇給分及び今後採用を予定している人員分を考慮しております。

また、チャットボットシステム及びFAQシステムの機能追加開発に伴い計上されるソフトウェアに係る減価償却費につきましては、2026年1月までの実績を基にソフトウェアの計上額を見積もり、当該金額に基づき算出しております。

以上の前提に基づき、2026年6月期の売上総利益は904百万円（前期比19.2%増）を見込んでおります。

（販売費及び一般管理費、営業利益）

販売費及び一般管理費は、人件費及びその他の販管費で構成されております。

人件費は、役員報酬、給与手当、賞与及び法定福利費等から構成されており、各部門における一人当たり人件費に人員数を乗じて算出しております。一人当たり人件費については、2026年4月の昇給分を考慮して算定しており、人員数については、当社の採用計画に基づき見積もっております。

その他の販管費は、主にマーケティング強化を目的とした広告宣伝費及び本社オフィスに係る地代家賃等で構成されております。広告宣伝費につきましては、2026年6月期に見込まれる展示会出展費用及びリスティング広告費用等を考慮して算出しております。地代家賃につきましては、賃貸借契約に基づく金額を計上しております。

以上の前提に基づき、2026年6月期の営業利益は500百万円（前期比35.4%増）を見込んでおります。

（営業外損益・経常利益）

営業外収益として、主に受取利息を、2025年6月期の実績に基づき計上しております。

営業外費用として、主に支払利息の発生を見込んでおります。支払利息については、2026年6月期の返

済スケジュールに基づく各月の借入金残高に各金融機関の利率を乗じて算定しております。

以上の前提に基づき、2026 年 6 月期の経常利益は 492 百万円（前期比 33.3%増）を見込んでおります。

（特別損益・当期純利益）

特別利益及び特別損失は発生しないと見込んでおります。

法人税等は、税務上の調整項目を加味した課税所得に法定実効税率を乗じて見積もり計上しております。

以上の結果、2026 年 6 月期の当期純利益は 322 百万円（前期比 30.9%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。



2026年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年7月15日

上場会社名 チャットプラス株式会社 上場取引所 東
コード番号 598A URL <https://chatplus.jp/corporate/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大江 繭子
問合せ先責任者 (役職名)取締役CFO兼管理部長 (氏名)森下 俊光 (TEL)050-8882-5558
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第3四半期の業績（2025年7月1日～2026年3月31日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	912	-	437	-	437	-	286	-
2025年6月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第3四半期	71.74	-
2025年6月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 当社は2025年6月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2025年6月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2026年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
2. 2026年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。
3. 当社は、2025年12月8日付で普通株式1株につき200株で株式分割を行っておりますが、上記では2026年6月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期第3四半期	1,133	693	61.2
2025年6月期	953	418	43.9

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 693百万円 2025年6月期 418百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	-	0.00	-	600.00	600.00
2026年6月期	-	0.00	-	-	-
2026年6月期(予想)	-	-	-	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2025年12月8日付で普通株式1株につき200株で株式分割を行っておりますが、2026年6月期(予想)の1株当たり期末配当金は、当該株式分割の影響を反映した金額を記載しています。株式分割の影響を反映しない場合の2026年6月期(予想)の期末配当金は600円、通期配当金は600円です。

3. 2026年6月期の業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,222	19.6	500	35.4	492	33.3	322	30.9	80.5

(注) 当社は直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、2025年12月8日付で普通株式1株につき200株で株式分割を行っておりますが、上記では2026年6月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年6月期3Q	4,000,000株	2025年6月期	4,000,000株
② 期末自己株式数	2026年6月期3Q	-株	2025年6月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年6月期3Q	4,000,000株	2025年6月期3Q	-株

- (注) 1. 2025年6月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載していません。
2. 当社は、2025年12月8日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。このため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数（自己株式を含む）」及び「期中平均株式数（四半期累計）」を算定しております。

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きましたが、物価上昇、米国の政策動向、中東地域をめぐる情勢等の影響により、依然として先行きが不透明な状況が続いております。一方で、生成AIなどが社会に与える影響への関心が世界的に高まる中、技術進展を背景に、業務効率化を目的としたDXの取り組みが引き続き社会に求められています。

このような状況のもと、当社は「コミュニケーションによる感動を最大限に追求し、AIを駆使した全自動社会を最速で実現する」というミッションを掲げています。企業が抱える労働人口の減少に伴う人手不足や、顧客及び従業員からの疑問に対して、より正確かつ迅速に対応したいというニーズに応えるべく、SaaSによるサブスクリプション（継続課金）方式のチャットボットシステム「ChatPlus」「AI AgentPlus」及びFAQシステム「FAQPlus」の開発・提供を行っております。当社のチャットボットシステムは、従来のシナリオ型・ルールベース型に加え、生成AIを活用した生成AI型チャットボット「AI AgentPlus」を提供しており、多様な顧客ニーズに対応しております。当社では、業種・企業規模に関わらず、多様な顧客ニーズに対応可能な全方位型サービスを提供しております。

当該期間におけるチャットボットシステムにおいては、顧客企業の要望に基づく機能改善やセキュリティ強化を継続して行うことで当該サービスの付加価値や信頼性を向上してまいりました。従来のシナリオ型チャットボットはあらかじめ設定した会話シナリオに従うため、利用者の質問意図と合致せず、目的の情報にたどり着けないという課題がありました。これに対し、生成AI型チャットボットは利用者の質問意図を起点に柔軟な対応が可能であり、利便性の高さを背景に導入が進んでいます。

さらに、生成AI活用に対する市場全体の関心の高まりを追い風として、当社では展示会やWebを通じた訴求に加え、無料トライアル及びオンボーディングで得た顧客フィードバックを開発に迅速に反映し、回答精度及びユーザビリティの向上に取り組んできました。

以上の結果、売上高は912,477千円、営業利益437,679千円、経常利益437,342千円、四半期純利益は286,952千円となりました。

なお、当社はSaaSソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

(資産の部)

当第3四半期会計期間末における流動資産は943,197千円となり、前事業年度末に比べて181,084千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が141,272千円増加したことによるものです。

当第3四半期会計期間末における固定資産は189,896千円となり、前事業年度末に比べて1,785千円減少いたしました。これは主に、ソフトウェアが10,649千円増加した一方で、建物付属設備が3,378千円、繰延税金資産が8,966千円減少したことによるものです。

この結果、資産合計は1,133,094千円となり、前事業年度末に比べて179,299千円増加いたしました。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末における流動負債は380,995千円となり、前事業年度末に比べ81,751千円減少いたしました。これは主に契約負債が39,688千円、未払法人税等が27,019千円減少したことによるものです。

当第3四半期会計期間末における固定負債は58,441千円となり、前事業年度末に比べ13,901千円減少いたしました。これは主に長期借入金で14,457千円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は439,436千円となり、前事業年度末に比べ95,652千円減少いたしました。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末における純資産は693,657千円となり、前事業年度末に比べ274,952千円増加いたしました。これは配当金を12,000千円支払ったものの、四半期純利益286,952千円の計上により利益剰余金が274,952千円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の業績予想につきましては、本日公表の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想は、当社が本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	689,358	830,630
売掛金及び契約資産	49,569	81,863
仕掛品	243	276
前渡金	11,698	14,769
前払費用	10,877	15,149
その他	440	603
貸倒引当金	△74	△96
流動資産合計	762,112	943,197
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	63,711	63,711
減価償却累計額	△6,377	△9,755
建物附属設備（純額）	57,334	53,956
工具、器具及び備品	6,475	7,479
減価償却累計額	△3,085	△4,080
工具、器具及び備品（純額）	3,389	3,399
有形固定資産合計	60,723	57,355
無形固定資産		
特許権	170	138
商標権	296	242
ソフトウェア	30,493	41,143
ソフトウェア仮勘定	1,343	1,328
無形固定資産合計	32,304	42,853
投資その他の資産		
出資金	100	100
繰延税金資産	32,712	23,746
敷金	65,842	65,842
投資その他の資産合計	98,654	89,688
固定資産合計	191,682	189,896
資産合計	953,794	1,133,094

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	28,040	28,885
短期借入金	14,999	20,000
1年内返済予定の長期借入金	26,796	21,156
未払金	18,020	14,158
未払費用	29,114	20,401
未払法人税等	106,630	79,610
契約負債	198,283	158,595
預り金	4,766	4,922
賞与引当金	3,552	7,212
その他	32,543	26,052
流動負債合計	462,746	380,995
固定負債		
長期借入金	25,115	10,658
資産除去債務	47,227	47,783
固定負債合計	72,342	58,441
負債合計	535,089	439,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
利益剰余金	408,705	683,657
株主資本合計	418,705	693,657
純資産合計	418,705	693,657
負債純資産合計	953,794	1,133,094

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
売上高	912,477
売上原価	219,169
売上総利益	693,308
販売費及び一般管理費	255,628
営業利益	437,679
営業外収益	
受取利息及び受取配当金	1,559
ポイント還元収入	239
その他	20
営業外収益合計	1,820
営業外費用	
支払利息	577
為替差損	1,570
その他	10
営業外費用合計	2,157
経常利益	437,342
税引前四半期純利益	437,342
法人税、住民税及び事業税	141,423
法人税等調整額	8,966
法人税等合計	150,390
四半期純利益	286,952

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社は、SaaSソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に関する四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	当第3四半期累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	13,446千円